新年のご挨拶（幹部職員）



あけましておめでとうございます。

数年にわたる新型コロナウイルス対応にご協力いただきありがとうございました。

すでにポストコロナの社会が動きだし、春からは働き方改革が本格的にはじまります。社会の変化がきています。この波に呑み込まれないように乗りこなしていきたいと思います。

今年はよく聴くことを大事にしたいです。耳には常に色々な音が届いています。しかし、人の耳はよくできていて、意識して聴かなければ心には届きません。患者さん、スタッフ、そして自分自身の声もしっかり聴く一年にしたいと思います。

素晴らしい年になるようにしていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。



新年あけましておめでとうございます。

本年が当院と職員の皆様にとって実りある一年となりますよう祈念いたします。

昨年はコロナ禍から脱却したとはいえ完全とは言えず何かと影響を受け続けた年でしたが、旅行や忘年会開催など少しずつ日常を取り戻せた年でもありました。

令和6年は停滞していた地域医療構想の議論が活発化することが予想され、当院としてダウンサイジングなどの好ましくない方向へ推移しないように、病床利用率や病床乖離等の改善に引き続き取り組むことになります。又、準備はしてきたつもりですが、4月から懸案となっていた医師の働き方改革が本格始動すれば多くの諸問題が発生するものと思われますので今年も忙しい一年になりそうです。

コロナ禍の4年間は当院及び職員の皆様にとって記憶に残る経験をした日々であったと思います。

この記憶・経験を糧にして困難に立ち向かっていきましょう。



健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2024 年甲辰（きのえたつ）の年、「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」縁起の良い干支の年です。努力した成果が実を結ぶような年になることを願い、新年の抱負として『一路邁進』という「目的を達成するために、ひたすら前へ進む」という意味の四字熟語を選びました。歴代の幹部職員をはじめ長崎医療センターの職員一同で築いてきた職員間の関係の質や互いをリスペクトする職場風土を定着させ、職員は勿論、地域の方に愛される病院として揺らがぬ長崎医療センターとするべく看護部を一つにして前向きに様々なことに挑戦していきたいと思いますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男・年女の今年の抱負

60年、いくつもの季節が過ぎ去り、多くの人と出逢い、様々な出来事や経験が積み上がったと振り返っています。日々の診療・研究・医療情報管理業務から苦悩と喜びを感じ、新しい気づきを得ることができました。そして医療に有用な情報発信にまで関わることができました。

これからも新たな一歩を踏み出す覚悟でいます。未知の領域への挑戦、問題の克服に対応して参りますが、共に働く皆様との更なる連携は不可欠です。チームワークと熱意さえあれば、これからも新たな成果を作れると信じています。

臨床疫学研究室長　山﨑 一美

Text crafted with ChatGPT aid

新年あけましておめでとうございます。2024年は甲辰の年で、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があり、これまでの努力が実って夢が叶いやすい年といわれているそうです。とても楽しみな一年になりそうです！

私自身、今年度より長崎医療センターに赴任し、戸惑うことも多い毎日ですが、一歩一歩、病棟のスタッフと一緒に「その人らしく」を実現できる働き甲斐のある病棟を目指して、頑張っていきたいと思います！本年もどうぞよろしくお願いいたします。

9A師長　原 知里

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.420

長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
専齋 SENSAI
2024 JANUARY VOL.420

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



院長年頭所感
幹部職員　新年のご挨拶
年男・年女の今年の抱負

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感



院長　八橋 弘

「つながり」

新年、あけましておめでとうございます。

昨年の5月、新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類に移行しました。新幹線長崎駅に立ち寄ると、観光地長崎を楽しそうに散策している旅行者をよく見かけるようになりました。一方、病院では多くの患者さんが受診されていて、皆さん健康を取り戻そうと努力されています。

ところで、過去1年間の県央地域の救急搬送困難事例件数は10件以下の一桁であったと報告を受けました。また当院の年間の救急車の受け入れ件数は約4千件以上であり、また救急車応需率も99％以上でした。この99％という数字は、高度救命救急センターだけでなく一般病棟への急患患者の受け入れもスムーズでなければ実現しません。多くの病院職員の理解と協力があってはじめてできることと考えています。また、当院では3次救急患者を中心に救急医療をおこなっていますが、周辺の医療機関や診療所では多くの1次と2次の救急患者さんを診ていただいています。県央地域では、医療の「連携と役割分担」が上手く機能しているので、救急医療が混乱することなく住民の皆さんが安心して暮らすことができていると考えています。

「ひとつの医療機関の努力だけでは問題は解決できない」私たちは、そのことをコロナの流行期に学びました。救急医療に限らず、医療の「連携と役割分担」を上手く機能させることが、これからの新しい医療のあり方と私は考えています。人と人のつながり、病院間のつながり、診療所と病院とのつながりを一層大切にしたいと思っています。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

安全で質の高い医療を提供する
救急医療の最後の砦となる
地域の医療機関、行政と密接に連携する
すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する



新年のご挨拶（幹部職員）



副院長　吉田 真一郎

新しい年を迎え、皆さんにとってより良い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。年末年始の休み期間中、救急や重症の患者さんにご対応いただいた職員の皆さん、本当にお疲れ様でした。ご尽力に心から感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症は社会や医療に大きな変化をもたらしました。昨年5月に5類に分類が移行し、社会が急速に「after コロナ」へと進む中、我々医療機関ではまだ「with コロナ」への対応が求められています。引き続き、感染症対策に全力を尽くしてまいります。

今年は、医師の働き方改革や診療報酬改定、当院にとりましては、病院機能評価更新受審の準備、そして「ダヴィンチ」の運用など、様々な変革やイベントが控えています。これらに真摯に着実に取り組みながら、地域からの期待に応えるよう、より質の高い医療の提供に努め、地域医療構想を見据えた連携を一層強化してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長　黒木 保

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては令和6年新春を大きな希望をもってさわやかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、当院にとりまして待望のロボット支援下手術が昨年末に導入されました。より精緻で安全、低侵襲な手術が種々の疾患に対して提供できるものと考えております。ロボット、AIと医療における技術革新はとどまるところを知らず日々進歩しております。一方でロボットを操作するのはヒトであり、医療者の温かい心が患者さんを癒すといった原則は変わりないものと信じております。県央の中核病院として最先端の医療を取り入れつつ地域の皆さまの安心に貢献できればと考えております。

病院運営における私の思いは、職員の方々が楽しく仕事ができて、患者さんが少しでも笑顔になれる明るい病院であることです。病院全体で「一体感」を醸成し、大変な状況に際してもベクトルを1つにできる力強い病院を目指したいと思います。

今年の干支は辰です。皆さまにとりまして龍のごとく躍動して、大きな飛躍の年になることを祈念いたします。今年もよろしくお願いいたします。



臨床研究センター長　田川 努

あけましておめでとうございます。本年が皆様と御家族にとってよき年であるように心よりお祈り申し上げます。

昨年は我々を悩ませ続けたCovid 19が５月に５類感染症に移行され、さまざまな事柄が復活してきました。今年はコロナ以前の日常生活がもっと普通にできるようになることを期待したいと思います。

さて、皆さんは仕事と家のこと以外に何かやっていることがありますか？趣味でもスポーツでもよいのです。私はまもなく現役を終えますが、振り返ると仕事以外に何もやってきませんでした。最近思います。何かあれば人生に彩を添えることができるなと。今年は何か始めてみようかと思います。皆さんも一つ新しいことを始めてみませんか。